

神様からもらった手

私が母のお腹の中で育って四カ月位たった頃、母は病院の先生から私の体には少し病気があることを知らされました。その病気は腹壁破裂というもので、日本で二万人に一人の確率で起こる病気でした。お腹のうすい所に小さな穴があき、その穴から腸が出た状態で母の羊水の中にプカプカ浮いていました。産まない選択もあったそうですが、母は迷うことなく、私を産むことにしました。

予定より少し早い四月二十五日、母のお腹を大きく開いて私は取り上げられました。それと同時に小児外科のスタッフが私を手術室へ運び、腸を入れる手術が行われたそうです。小さい体にいきなり全部を入れることはできないらしく、点滴の容器を半分に切ったように入れものに腸を入れ、点滴のくだのようなものから一週間かけてゆっくり私のお腹に戻されました。

合併症から左手、左足に合指症という病気をもっていました。左手の三本の指がくっついていて、人差し指から四本の爪がありませんでした。一才から一年に一本ずつ、切り離す手術を毎年して、三才の時におへそをつくりなおして手術は終わりました。

四才の頃に、自分の指がいつ他の人みたいに生えてくるのか、私は母に聞いたそうです。五才位になった時、指も爪も生えてこないことを教えてくれました。

「でもね、彩伽の左手は幸せを掴む神様がくれた手なのよ」と左手をやさしく、にぎりしめてくれました。

保育園の時、

「何であやちゃんの手は、指がないの」と、聞かれ、

「これね、神様からもらった手とたい。かわいいでしょ」と、答えたそうです。

今では、無意識のうちに左手を隠すようになりましたが、いつか、神様からもらった手と誇りに思えるようになりたいです。